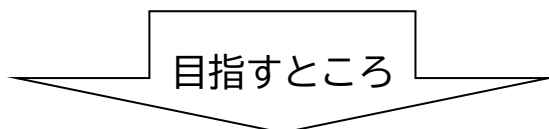


令和4年度 矢渕中学校教育基本方針

1. 学校教育目標

『工夫・探求・創造する姿勢を持ち、未来を確かに歩む生徒を育てる』

☆未来を確かに歩む生徒の育成へ ～3つの姿勢～



	(1) 工夫する	(2) 探究する	(3) 創造する
学校像	お互いに学びあい、生きる力を高め合う学校	全ての学習を横断的・系統的に学びながら問題解決に向かう学校	保護者・地域とともに子どもたちを見守り、未来を確かに歩む生徒を育てる学校
生徒像	あいさつ、そうじ、時間を大切に、学校生活を工夫する生徒	仲間とともに協働しながら、自ら考えを深め、表現する生徒	地域から学び、地域の未来を描き、自分のこととして学ぶ生徒
教師像	子どもとともに工夫し、子どもとともに成長する教師	想いを一つにして、学びあい・つながりあい・高めあう教師	保護者・地域とともに子どもたちが未来を確かに歩む教育を創造する教師

2. 教育経営方針と目標

(1)未来を確かに歩む学力の向上を目指す。

- ①きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と探究する学びを推進する。
- ②よくわかる授業、学びあえる授業の実現に向けて指導方法の工夫改善に努める。
- ③生徒の実態を踏まえ、自ら意欲的に学ぶ生徒を育成する。

(2)生徒一人ひとりの個性と人権を尊重し、行動できる教育活動を進める。

- ①生徒たちの主体的な活動を通して自立に向けた取組を推進する。
- ②お互いを一人の人間として尊重しあえる、人権感覚あふれる子どもを育成する。
- ③相談活動を充実させることで生徒理解を深め、全教職員でかかわる体制を創る。
- ④自らの生き方や将来に目標をもって進路選択ができるよう、豊かな心と健やかな体を育成する。

(3)地域のコミュニティーの一組織として、家庭や地域と連携し、信頼される「地域とともに育つ学校づくり」をすすめる。

- ①学校教育活動の理解を得るための情報発信を積極的に行う。
- ②保護者や地域の方との積極的な交流を通して相互理解を高める。
- ③学校運営協議会(コミュニティー・スクール)において保護者・地域・学校が連携し、地域が一体となり、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させる。

(4)「想い」を共有し一人ひとりが工夫し、協働する学校運営体制を構築する。

- ①教育機関と連携し、全員で協力して学校運営に携わる「チーム矢渕」の構築。
- ②生徒の成長にやりがいもち、保護者とともに支援する教職員集団。
- ③ワーク・ライフ・バランスを大切に、教職員が安心して働ける学校。

3. 教育経営方針に基づく具体的目標

(1) Aグループ 未来を確かに歩む学力の向上を目指す。

代表：長嶺 1年：野地本 2年：長嶺・前川 3年：永田・石垣

①きめ細やかな指導を行い、基礎学力の定着と探究する学びを推進します。

○ペアやグループ学習を積極的に活用します。

☆「探究の学び」を推進します。

探究の学びとは生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことです。

○習熟度別指導（1年生）やティームティーチング授業を充実させ、子どもたち一人ひとりが「わかる楽しさ」や「互いに高め合う楽しさ」を実感できる授業を目指します。

○県教育委員会と教職員が作成している「ワークシート」、「学 Viva セット」を日頃の補充学習や家庭学習、長期休業期間等で活用します。

☆端末機器による e ラーニングを活用します。

②よくわかる授業、学びあえる授業の実現に向けて指導方法の工夫改善に努めます。

○教育委員会から助言者やアドバイザーを招いて公開授業研究や校内研修を開催します。また、GIGA スクール構想に基づく Chromebook の効果的な活用方法を学び推進します。

○全国学力学習状況調査やみえスタディチェックが子ども達にとって励みとなるような教育活動を進めます。

○他校の視察や授業研究会へ積極的に参加し、よりよい指導方法を学びます。

☆教育関係機関に授業を観ていただきアドバイスを受けることで、専門的な知識を授業実践につなげます。

③生徒の実態を踏まえ、自ら意欲的に学ぶ生徒を育成します。

☆定期テスト前5日間は、学習計画や反省、担任との懇談、放課後の自主的な学習への取組を推進します。

○キャリア教育と関連した目的意識を高めるための学習や「自学ノート」の効果的な取組を推進します。

○「生活習慣・読書習慣チェックシート」を年2回実施し、保護者からのコメントを頂くとともに、学校からもコメントを書き加えるなど保護者との連携に努めます。

○アンケートや教育相談を拡充し、個々の生徒の思いや背景をとらえ、生徒の実態や生徒への理解を深めます。

○学校自己評価（生徒・保護者アンケート）を年間2回実施し、実態や要望等を把握するとともに、日頃の指導を振り返ることで「子どもたちのための授業」創りを進めます。

(2) Bグループ 生徒一人ひとりの個性と人権を尊重した教育活動を進めます。

代表：脇濱 1年：脇濱・草野 2年：綿谷・ルガール 3年：西濱

①生徒の自立に向けた取組を推進します。

- 体育祭や文化祭、生徒会活動を通して生徒たちの自治的な活動を積極的に推進します。
- 自立の力を育むため、「見守る姿勢」を大切にした教師の関わり方と指導を追求します。
- 保護者や地域と連携したさまざまな体験学習活動（地域に学ぶ、職場体験学習等）を推進します。

②お互いを尊重しあえる、人権感覚あふれる子どもを育成します。

- 「子どもたちの人権」を第一に考え、しっかりと寄り添う教育活動を推進します。
- 子ども達が「人権」についてしっかりと考える場面を設定し、創造することを大切にします。
- ☆外部講師を招聘し、「差別」や「偏見」、「多様性」について講演を開催し、子どもの視野を広げる、思考を深める取組みを推進します。
- 道徳の授業を通して、子どもたちの人権感覚を育むとともに、教職員の指導力向上等につなげます。

③相談活動を充実させることで生徒理解を深め、全教職員でかかわる体制を創ります。

- 学級担任は毎日の連絡帳を通したやりとりをはじめ教育相談等を定期的に行い、生徒理解に努めると同時に、SC、MC（心の相談員）、教育支援センター、SSW等との日常的な連携を深めます。
- 学級担任との教育相談、全員カウンセリング、保護者との教育相談や家庭訪問、校区人権フォーラム等、さまざまな機会をとらえて生徒理解を深めます。
- ☆職員間や地域・教育機関との丁寧な情報共有と連携をすすめ、生徒への理解を深めます。

④子どもたちの豊かな心と健やかな体を育成します。

- 「あいさつ」をする。「そうじを一生懸命行う」「なかまどうしつながりあう」ことを学校生活の中で常に意識し、子どもたちに投げかけます。
- 部活動では国・県のガイドラインに沿って作成した「矢渕中学校部活動運営に関する指針」に則り、原則平日2時間、週休日3時間をめどとします。
- また、勝利至上主義に陥ることなく、子どもたち一人ひとりが達成感を得られる場となるよう指導法の工夫に努めます。

(3) Cグループ

地域のコミュニティーの一組織として、家庭や地域と連携し、信頼される「地域とともに育つ学校づくり」をすすめます。

代表：大田 1年：大田 2年：谷・石橋 3年：林

①学校教育活動の理解を得るための情報発信を積極的に行います。

- ☆学校ホームページやマチコミ(タイムライン)を活用し積極的な情報発信をすすめます
- 学校だよりやブログ、保健通信などを積極的に発行します。
- ☆学校からの情報提供に対して、保護者や地域の方が質問や意見を述べられる機会や場面の設定に努めます。

②保護者や地域の方との積極的な交流を通して相互理解を高めます。

- 体育祭や文化祭等の行事、公開授業など、保護者や地域の方に学校に来ていただける機会を数多く持つとともに、来校いただきやすい環境作りに努めます。
- 家庭訪問や保護者懇談会を開催し、子どもたちを中心に据えた、想いの共有に努めます。
- 地域で行われるさまざまな行事に対し、子どもたちが参加しやすい環境作りを進めます。

③学校運営協議会(コミュニティ・スクール)において保護者・地域・学校が連携し、地域が一体となり、子どもたちの育成について熟議を進め、学校運営の改善に反映させます。

- 学校教育へ直接的に参加いただき、地域に根ざした特色ある教育活動をすすめます。
- 学校アンケートや学校自己評価・関係者評価を実施し、次年度の学校改善につなげます。
- 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」のあり方を検討するとともに、更に充実させ、保護者や地域の方にも学校経営に参画していただきます。

各グループは①～③または④の方針に対して○☆の具体的な取組を行います。☆はR4年度新たに追加・修正した取組(チャレンジ)です。

ご家庭におかれましては、これらの具体的な取組(項目)について年2回(前期・後期)アンケートに答えていただきますようご協力おねがいします。

アンケートで頂いた結果やご意見等をグループ会議で検証しその後の取組に反映できるよう努めてまいります。



(4) Dグループ

「想い」を共有し一人ひとりが工夫し、協働する学校運営体制を構築します。

代表：濱口 1年：鬼海・鈴木 2年：加藤 3年：濱口・清岡

①教育機関と連携し、全員で協力して学校運営に携わる「チーム矢渕」を構築します。

- 保護者、地域、教育機関と連携し、活発な情報交換をおこない、課題を見極め、全教職員が一丸となって組織的かつスムーズな学校運営に取り組みます。
- 「報告・連絡・相談」(ほう・れん・そう)を確実に実行することで十分な共通理解を深め、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」を重視した学校運営をすすめます。そのためには、人任せのような報告ではなく、自らが指導を行っていく当事者としての意識を強く持つように心掛ける

②生徒の成長にやりがいを持ち、保護者とともに支援する教職員集団を目指します。

- ☆子どもたちの良さを休憩時間に共有できる教職員集団を目指します。
- 校内労働安全衛生委員会を年3回程度開催し、数値目標を掲げるとともに、「計画→実行→検証→改善(PDCA サイクル)」において改善を目指します。
- 学年主任会議(教務会)や各種委員会(生徒指導部会・特別支援委員会、予算委員会・学校行事实行委員会・教科部会など)の積極的な活用により、スムーズな学校運営に取り組みます。

③ワーク・ライフ・バランスを大切にし、教職員が安心して働ける学校づくり。

- 紀宝町教育委員会から出された「教職員の在校等時間の上限等に関する方針」に則り、教職員集団が自らの働き方を工夫、探究、創造し、教職員自身が豊かな心と健康を保ち子どもたちに向き合えるよう、働き方改革を推進します。
- ☆働き方改革の推進により、一人で課題・問題を抱え込まない、高い同僚性の構築に努めます。
- ☆会議時間の短縮を目指し、資料等事前の配布や「週案」の取組を推進します。
- 週1回の定時退校日を水曜日に設定し、見通しを持った執務を心掛け実現します。
- 部活終了後、2時間以内を目標に退校するように努めます。

Dグループの具体的な取組やAグループ～Cグループの取組の内容によっては、アンケートに答えにくい(学校の取組がわかりにくい)場合もあろうかと思えます。

矢渕中学校のHPにあるブログやまちこみのタイムライン、学年通信、子どもたちのご家庭での会話等を通して回答の参考にしてください。

